



～下水管路の老朽化対策について～



これまでの取り組み

当事務所では、下水管路が傷んでいないかを確認するために、重要な場所ほどこまめに点検するようにしています。

その点検で、「すぐに直したほうがいい」と判断された場所は、優先的に新しい下水管に取り替えるなどの改築更新を行っています。



埼玉県八潮市における大規模陥没事故発生に伴う当事務所の取り組み

福島県独自の調査

事故発生後に、大きな道路陥没事故に繋がる恐れがある直径2メートル以上の大型下水管が埋設されている道路の道路陥没調査(1次調査)、次いでマンホール内部の調査(2次調査)を緊急に実施しました。

調査の結果、異常のないことが判明し道路陥没の未然防止に取り組みました。



道路陥没調査
(1次調査)



マンホール内部調査
(2次調査)

下水管路の全国特別重点調査

令和7年3月18日付け国土交通省の要請による調査で、直径が2メートル以上かつ築造してから30年以上経過した下水管路を対象に、目視またはテレビカメラ等により管路内部を確認し、損傷等が発見された箇所は、地下に空洞がないかを確認するものです。

当事務所では県中幹線の10.3キロメートルが調査の対象になっており、管路に著しい損傷が確認された場合、その緊急度に応じて老朽化対策を実施することとしております。